勢山文書 ②「おさしづ」の写し翻刻

おやさと研究所員
安井　幹夫　*Mikio Yasui*

さて、近愛、北野文書のおさしづ写本を翻刻してきた流れを受けて、勢山文書としてのおさしづ写しの翻刻を試みることにする。おさしづ写しの流れを考える資料の一つになるという見込を立てている。なお、翻刻順序は、最初に綴じられていないもの３件。次いで、冊子になっているもの。それらは最初の年月日の順としておく。

最初は、２枚の用紙にかかれていたもの。綴じられてはいない。

明治三十一年十二月三十一日　旧十一月十九日　午後二時頃こくげん御咄し
ウン〳〵さあ〳〵ウン〳〵　をなし咄しかける〳〵　咄しかけるて　皆そろふてかへつて　さあ〳〵古いもの〳〵　つれかへつて〳〵　さあ一時咄しする　どんな事でも咄する　よふきゝわけてくれ　とんな者もこんな者も　古い者つれかへつた〳〵なあ〳〵古い事やけど〳〵　咄しする　そんな事わ年限たてずなんで有たやろ　こんな事かへ　そふゆう事であつたかへ　そふやつたか　三十年のうゑになるやろ　三十六年以前にハさきと思ふていたのに　なんとかゑないなあ　そのしぶんは　ゑへと思ふていた　もと〳〵ハなあ　どこのぼふすやらわからん者が　かど口さして　あばれをつて〳〵　どふしよやしらんと思ふたるも有たなあ　そら六月頃や有たな　其時の事を思へば　ゆめみたよふな事ニなつたなあ　ゑらい事になつたな　それ迄みんなよつてこつて　思よふて立た事あつたなあ　皆とんなつらい事もあつたな　其時のことを思へば　今日はゑんりよする事ハいらん　気かねする事わいらんで　古い事ハ咄しのよふなもの　皆きいているものハよい　きいていん者にハたよりないよふなもの　されとも道ハをかんなれは　世界さかん　世界さかんといふハ元か有からや　元を思へばゑんりよふいらんが〳〵　是迄毎夜〳〵神の咄しニしてある　してあつても其時そふと思ふたけ　さふいむもんもあつたなあ　もふよあけやでなとりがないた事もつたなあ　そふやつた　とんてもない事あつたなあ　其時とんなことも　とふてもろたんでつた　やがてきよふはゑりよせんならん人間ハない　六月頃の咄し　ほふづきよつたのが　あら古い事　たゝみゑかたなを　ぬきやがつてぐさつとさしよつた事もあつて　どをしよふなあ　こふしよふやなあ　そのときの事第一思ふ　わしも思いちかいしたわいそれでとふもならん　そんな事　今思たてならん〳〵　わしもついて　ます〳〵まあなごふ思いなされ　古い咄しきいてもらいたい　今夜ちよつとよつて　一寸あつまつて　一寸咄しすることばから　かんじおこしてくれバよい　かんじねば　とても〳〵長い事勤められん　こんな事今夜そんな事　まだ〳〵よわつたとゆう事ハ　かを色ニも出しておくれな　もふわしもてますわい　をい〳〵咄しするから　皆すんでくれたらよい　ほんになるほどと　おさまりたらよい　これハいつもの事やと思ていてハ　とんな心ぱいせんならんやらしれんで　是だけ一寸咄し　さかん〳〵待ちかね　さいしよふハ　どふしよにもにもこふしよふにもてけなんだ　今ハとんな事でもしよふと思たらてける　世界からとんなものでも出てくる　三十年あとの神の咄し　三十年以らい　とんなものでてきても　あたゑるものもない所　大工といふてふせた事　卅五年以前より　柱にしてつれてとふりてひらいた道　此里ハ是迄といた事ハない　家内ふせこんだ〳〵　なにもしらん者から　とひこんだ〳〵　是おさまりたら　席ハあの位有ものかが　日々どふせんならん　此咄しあるなれど　身上せまり　神の咄しもある　しゆん〳〵ふかい咄しする　是はうゝかりしてハゐられんで　ゆめにもつたへたる　又さしつにしらしたる理ハ一人かぎり　聞きわけ　しやんせにやならん　なか〳〵の里である〳〵　心てハとふこふ思ていて　心でうつした処が　しんの心におさまらにやあんしんならん処ある　どれ丈の事してもあんしん　ことば一ツの理でなりてくる理聞わけ　さいしよハ　もふ〳〵さふい〳〵　もふよほどおそいやろなあ　もふほとのふ鳥がなくやろふなふというた事もある　とふもならんところ　今ハ十分すみなけれバすみ　しばなけれバしば　ふじゆなきよふ　此おちつくばしよふしやんせ　きものくいものはかりをたのしみ　咄しからたのしまして　一ふてかいて理を便りにつれてきた道である　あと〳〵人ニでよたる　是丈の咄し　ほかの咄しにもつたへられんはんじの咄しにも」（一枚目）
ませる事あれば　ませるにませられん事もある　そこでこくげん〳〵といふ順上の咄しの理をつたへてくれ〳〵
しばらくして
さあ〳〵ゆふくり筆にとれ　さあ〳〵神が天降りの咄しかけ世界の道つくりたるも　をなじ事　事情の中とて　尋ねたてはんじさとせん　そこで刻限から聞わけ　古い〳〵咄し　一寸〳〵つたへたる　なんでもかでも　古いものハよふいでならん古いものさけにやならん　今筆とりているものも有　又一人ハしいと聞ている者も　こら古い二代目の親ニり聞わけ　それよりなるほとといふてとふり　あさやか　神の道からあさやか元〳〵めい〳〵よりついた里より　はつちや」わからん　あと〳〵そふたる〳〵心のりより　むねにはまりたらたつねる　見てもみんふりするほと　つらい事ない　口でどんな事云たて見て見んふりするほどつらい者ハない　又ほんになるほどと口で人に万足さしたて　そふであつたかいなあ　しんの尋やいことはぞへ言ぞへハしんのま事　ま事ハ是よりない　此咄しつたゑバ　おさめかた　又咄し方の里にもなる　とふいふ事におさまるもおさまらんも　言そへるが里　どふいふ処にいるものも　こふいゆふ処にいる者も　かげから言をそゑる道なれど　人によりておふた時　口でいふていて　あとてふんといふてるよふな事でハならん　きよふハまあたて　しよらいハ神のおさめる処といふ　あすとゆへばあす　今日とゆへばきよふ　今といへば今といふ　ふかき咄しであるほどに〳〵　此どふ里聞わけ　三ツそろた　是迄三日そろふた事はない　そろても心がそろわねばそろたとハゆゑん　なにもならん　此理よりたよりない　たよりなくばたのしみない　是丈ヶ十分つたへたらどこでもおめもおそれもする事ない　此どう里の理をよふ聞わけてくれ

（注）正冊と対照するとき、割書の時間が相違している。正冊では「午前一時」である。